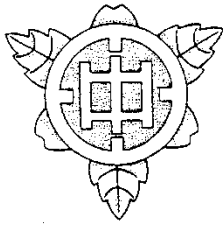


学校だより



10月号

令和3年9月30日

さいたま市立田島中学校

〒338-0837

さいたま市桜区田島10-13-1 TEL 048(864)3451

<http://tajima-j.saitama-city.ed.jp/>

【学校教育目標】

きれいな学校・調和のとれた人づくり

- 自ら学ぶ生徒（知性を磨く）
- 心豊かな生徒（感性を研ぐ）
- 活動力のある生徒（体を鍛える）

ぶつかる

校長 市川 敏 行

かつて田島中学校で教鞭をとられていた先輩が素敵な詩を紹介してくれたことを、ふと思い出しました。

動詞「ぶつかる」

ある朝
テレビの画面に
映し出された一人の娘さん
日本で最初の盲人電話交換手

その目は
外界を吸収できず
光を 明るく反映していた
何年か前に失明したという その目は

司会者が 通勤ぶりを紹介した
「出勤第一日目だけ お母さんに付き添ってもらい
そのあとは
ずっと一人で通勤してらっしゃるそうです」

「お勤めを始められて 今日で一ヶ月
すしづめ電車で片道小一時間……」
そして聞いた
「朝夕の通勤は大変でしょう」

彼女が答えた
「ええ 大変は大変ですけど
あっちこっちに ぶつかりながら歩きますから、
なんとか……」

吉野 弘 作

「ぶつかりながら……ですか?」と司会者
彼女は ほほえんだ
「ぶつかるものがあると
かえって安心なのです」

目の見える私は
ぶつからずに歩く
人や物を
避けるべき障害として

盲人の彼女は
ぶつかりながら歩く
ぶつかってくる人や物を
世界から差しのべられる荒っぽい好意として

路上のゴミ箱や
ボルトの突き出ているガードレールや
身体を乱暴にこすって過ぎるバッグや
坐りの悪い敷石やいらした車の警笛

それは むしろ
彼女を生き生きと緊張させるもの
したい障害
存在の肌ざわり

(後略)

紙面の都合上すべてを掲載することはできませんが、後半も吉野さん独特の素敵な表現がこの詩を一層素晴らしいものにしています。さて、皆さんはこの詩を読み、どのように感じられたでしょうか。私は、田島中学校の生徒に対し、望むことを二つ思い浮かべました。

一つめは、たとえ障害や困難にぶつかったとしても、決して負けない強さを持ってほしいということです。誰でも障害や困難を避けたいものですが、すべてを避けて生きていくことは不可能です。また、それを乗り越えていくことにより自分を成長させることができます。自らを「生き生きと緊張させるもの」として、しっかりと受け止め、逞しく乗り越えていってほしいと思います。

二つめは、人とぶつかったとしても、相手を認め、受け止められる優しい人間に育ってほしいということです。いきなりぶつかってこられれば腹も立つでしょう。しかし、この詩のように目の不自由な人が相手だったらどうでしょう。自分とは違う人、弱い立場の人はたくさんいます。「世界から差しのべられる荒っぽい好意」として優しく受け止めてほしいものです。

自分自身も現役時代は対戦相手や怪我、練習環境等様々な困難を乗り越え成長できたと思っています。あとは相手を認め、受け止められる優しい人間でありたいと、この詩を読んで強く感じました。